

# 令和 6 年度 事業報告書

自 令和 6 年 4 月 1 日

至 令和 7 年 3 月 31 日

地方独立行政法人福岡市立病院機構

## 目 次

### 「福岡市立病院機構の概要」

1 現況（令和6年4月1日現在）	1
① 法人名	1
② 設立目的	1
③ 設立根拠法	1
④ 設立経過	1
⑤ 資本金	1
⑥ 事業内容	1
⑦ 運営本部、病院の所在地	1
⑧ 組織	2
⑨ 役員の状況	2
⑩ 職員数（5月1日現在）	2
2 基本的な目標等	3

### 「全体的な状況」

1 取組の総括と課題	3
2 大項目ごとの取組状況及び特記事項	4

### 「項目別の状況」

第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置	
1 医療サービス	10
(1) 良質な医療の実践	10
(2) 地域医療への貢献と医療連携の推進	12
(3) 災害・感染症等への適切な対応	13
2 患者サービス	15
(1) 患者サービスの向上	15
(2) 情報発信	16
3 医療の質の向上	17
(1) 病院スタッフの計画的な確保と教育・研修	17
(2) 信頼される医療の実践	19
第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置	
1 自律性・機動性の高い運営管理体制の充実	20
2 事務部門の機能強化	21
3 働きがいのある職場環境づくり	21
4 法令遵守と公平性・透明性の確保	23
第3 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置	
1 持続可能な経営基盤の確立	23
(1) 経営基盤の安定化と運営費負担金の適正化	23
(2) 投資財源の確保	24
2 収支改善	24
(1) 収益確保	24

(2) 費用削減	25
第4 その他業務運営に関する重要事項を達成するためによるべき措置	
1 福岡市立こども病院における医療機能の充実	27
2 福岡市民病院における経営改善の推進	28
第5 予算（人件費の見積りを含む。）、収支計画及び資金計画	
1 予算（令和6年度）	29
2 収支計画（令和6年度）	30
3 資金計画（令和6年度）	31
第6 短期借入金の限度額	32
第7 重要な財産を譲渡し、又は担保に供する計画	32
第8 剰余金の使途	32
第9 地方独立行政法人福岡市立病院機構の業務運営等に関する規則で定める 業務運営に関する事項	
1 施設及び設備に関する計画（令和6年度）	32
2 人事に関する計画	32

## 「福岡市立病院機構の概要」

### 1 現況（令和6年4月1日現在）

#### ① 法人名

地方独立行政法人福岡市立病院機構

#### ② 設立目的

地方独立行政法人法に基づき、福岡市における医療施策として求められる救急医療、高度専門医療等を提供すること等により、市内の医療水準の向上を図り、もって市民の健康の維持及び増進に寄与することを目的とする。（定款第1条）

#### ③ 設立根拠法

地方独立行政法人法（平成15年法律第118号）

#### ④ 設立経過

平成21年3月25日	定款制定（平成21年当初議会議決）
平成22年2月25日	設立認可申請（総務大臣）
平成22年3月18日	設立認可（総務大臣）
平成22年4月 1日	法人設立（設立登記）

#### ⑤ 資本金

662,866,343円（福岡市が全額出資）

#### ⑥ 事業内容

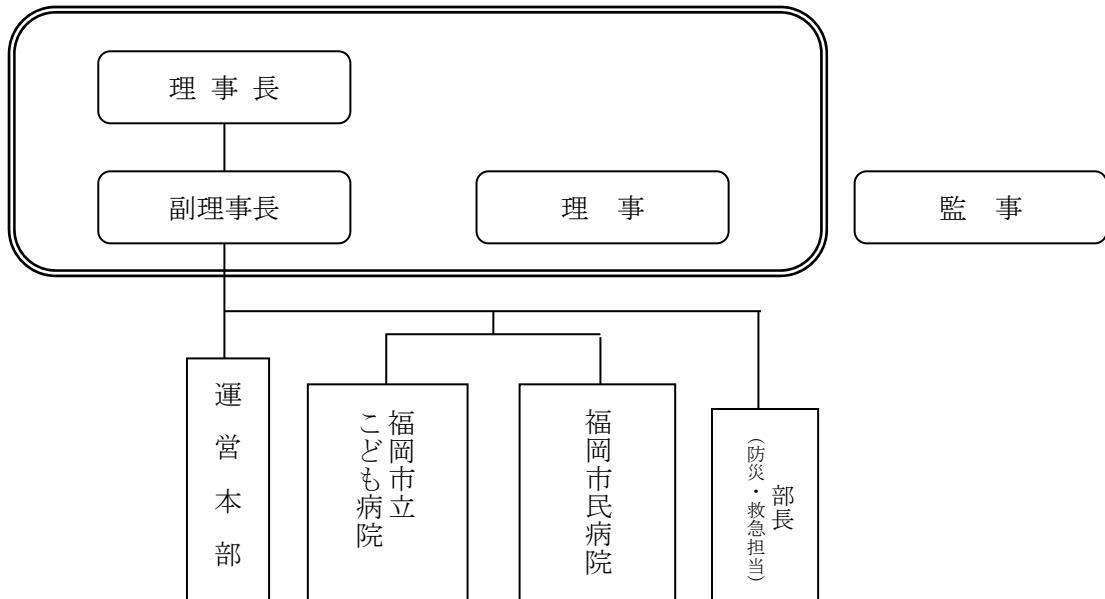
福岡市が示した中期目標を達成するための医療の提供  
(福岡市立こども病院及び福岡市民病院の運営)

#### ⑦ 運営本部、病院の所在地

施設名	所在地	病床数
運営本部	福岡市東区香椎照葉5丁目1番1号	—
福岡市立こども病院	福岡市東区香椎照葉5丁目1番1号	一般病床 239床
福岡市民病院	福岡市博多区吉塚本町13番1号	一般病床 200床 感染症病床 4床

## ⑧ 組織

理事会



## ⑨ 役員の状況

役員	氏名	備考	任期
理事長	堀内 孝彦	福岡市民病院 院長	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日
副理事長	楠原 浩一	福岡市立こども病院 院長	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日
理事	石橋 達朗	九州大学 総長	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日
	瓜生 道明	九州電力株式会社 代表取締役会長	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日
	神坂 登世子	福岡国際医療福祉大学 生涯教育センター 副センター長	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日
	平田 誠一	運営本部 運営本部長	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日
監事	近藤 祥子	公認会計士	令和6年7月1日～ 令和8年度財務諸表承認日
	柳澤 賢二	弁護士	令和6年7月1日～ 令和8年度財務諸表承認日

## ⑩ 職員数

区分	令和6年5月1日現在	令和5年5月1日現在
合計	1018人(8人)	1001人(8人)
運営本部	13人(5人)	13人(5人)
福岡市立こども病院	617人(2人)	600人(2人)
福岡市民病院	387人(1人)	388人(1人)
部長(防災・救急担当)	1人	

※( )は市派遣職員数。

## 2 基本的な目標等

地方独立行政法人福岡市立病院機構は、地方独立行政法人制度の特長である自律性、自主性を最大限に發揮し、医療制度改革や診療報酬改定など医療を取り巻く環境の変化に迅速かつ柔軟に対応しつつ、効率的な病院経営を行いながら、地域の医療機関等との機能分担や連携の下、引き続き高度専門医療、救急医療等を提供し、地域における医療水準の向上、市民の健康の維持及び増進に寄与すべく、以下の基本理念及び基本方針の下、福岡市長から指示された中期目標を達成する。

〈基本理念〉

いのちを喜び、心でふれあい、すべての人を慈しむ病院を目指します。

〈基本方針〉

質の高い医療の提供

地域・社会に貢献する病院

健全な病院経営

## 「全体的な状況」

### 1 取組の総括と課題

法人設立 15 年目となる令和 6 年度については、福岡市から示された第 4 期中期目標期間の最終年度であったが、市立病院としての役割を果たすため、引き続き新型コロナウイルス感染症（以下「コロナ」という。）の対応に取り組むとともに、患者サービスの向上、病院機能の強化、経営の効率化等に取り組んだ。

令和 6 年度の年度計画については、引き続き、福岡市立こども病院においては、中核的な小児総合医療施設としてこれまで培ってきた小児医療（高度・地域・救急）及び周産期医療の更なる充実に取り組んだ。また、福岡市民病院においては、コロナ等への対応を継続しながら、高度専門医療については安定的な提供に取り組むとともに、救急医療については「断らない救急」の徹底に取り組み、紹介患者及び救急患者の受入を強化した結果、病床利用率や新規入院患者数が前年度を大きく上回った。

経営収支面では、収益確保として、適宜、病院幹部によるモニタリングや協議を行う等、効率的に病棟を運用しながら、施設基準管理ソフトを活用し、増収に繋がる施設基準の取得及び維持管理に努め、令和 6 年度の診療報酬改定について的確に対応するよう努めるとともに、レセプト請求の精度向上等に取り組んだ。また、費用削減として両病院の診療材料の同種同効品の統一化や価格交渉等に取り組んだほか、省エネルギー化を推進し光熱費の縮減に努めたが、福岡市立こども病院においては、診療報酬の改定による P I C U 等の入院管理料の取下げ等の厳しい状況により 5 億 8 千万円余の当期純損失が発生し、福岡市民病院においても、医業収益は前年度を大きく上回ったものの、物価高騰の影響による経費の増などにより、4 億 4 千万円余の当期純損失が発生した。

今後の課題として、両病院とともに、経営の効率化等への積極的な取組をはじめ、ハラスメント防止などによる働きやすい職場環境の整備に努めるとともに、福岡市立こども病院においては、求められる高度小児専門医療、小児救急医療及び周産期医療を提供す

る病院としての役割を果たしていくため、医療環境の変化を見据えながら、医療機能等について検討を進めていく必要がある。

また、福岡市民病院においては、福岡県地域医療構想及び福岡県保健医療計画において地域で必要とされる高度専門医療及び高度救急医療体制を提供するために必要な取組を継続して行うとともに、災害時や感染症等発生時などの緊急時には、事業継続計画に基づき、福岡市及び関係機関との連携の下、市立病院として求められる役割を果たす必要がある。

さらに、現在、福岡市病院事業運営審議会で審議されている将来的な福岡市民病院のあり方に関する検討状況を踏まえながら、現在の医療資源を最大限有効活用して経営の効率化に積極的に取り組む必要がある。

## 2 大項目ごとの取組状況及び特記事項

### 第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとするべき措置

#### (1) 医療サービス

福岡市の医療施策として求められる高度専門医療、高度救急医療等を引き続き提供するために、診療機能の更なる充実を図った。

福岡市立こども病院においては、「第一種協定指定医療機関」として、小児のコロナ感染患者に対する小児救急医療を提供した。また、緊急母体搬送症例の積極的な受入れ、移行期患者や家族への支援、食物アレルギー、喘息及びアトピー性皮膚炎の成人移行支援パスの作成着手、医療的ケア児のレスパイト入院受入、看護師、MSW（医療ソーシャルワーカー）等の多職種協働による患者情報の聴取や入院支援、抗インフルエンザ薬のフォーミュラリーの作成、こども支援室の設置など診療機能の強化・充実に取り組んだ。

福岡市民病院においては、引き続き感染症への対応を継続しながら、リウマチ・膠原病内科を設置し、遺伝性血管性浮腫（HAE）のオンライン診療を開始したほか、循環器内科において、非侵襲的手法によりAIによる解析を行い、患者への負担軽減となる新しい技術の導入を積極的に行った。

また、脳卒中、循環器疾患については、医師、救急救命士が同乗する形での迎え搬送を実施するとともに、救急医療については、「断らない救急」の徹底に取り組んだ。

さらに、両病院ともに引き続き、オープンカンファレンスを実施するなど、地域の医療機関を中心に積極的な病病・病診連携を推進するとともに、災害発生に備えた訓練の実施やBCP（事業継続計画）の見直し等を行った。

#### (2) 患者サービス

患者・家族等のサービス向上に取り組むとともに、病院の役割や医療内容等を広く情報発信し、市民に開かれた病院づくりに努めた。

福岡市立こども病院においては、患者家族向けの病棟への外部の弁当配送サービス及び患者本人向けの退院時アンケートの開始、スマートフォンアプリを利用した

患者呼出システムの本格運用、地元プロスポーツ球団等の病棟慰問や入院中の子どもと家族のための家族写真撮影会を開催するとともに、窓ガラスへの遮光カーテンや遮光フィルムの取付け、共用シャワー室の手摺の増設など、患者サービスの向上を図った。

福岡市民病院においては、クレジットカード決済端末の増設、患者からの指摘・意見に対する回答の院内各所への掲示など、患者サービスの向上を図った。また、総合案内業務を外出困難な重度障がい者等が分身ロボットを活用して交替で行う実証事業に協力した。

さらに、両病院とともに、ホームページやSNS（ソーシャルネットワーキングサービス）を活用した患者や医療関係者等への情報発信を行うとともに、出前講座や生涯学習講座を行うなど、医療機関、市民・患者に開かれた病院づくりに努めた。

### (3) 医療の質の向上

実習生の受入れや説明会等を実施して、意欲ある人材の確保に努めるとともに、専門職としての知識・技術の向上を図るため、認定看護師等資格取得支援制度の活用を促進した。

福岡市立こども病院においては、職員向けクリニカルパス勉強会を開催するなど普及・啓発活動を行いケアの標準化、均質化を図るとともに、院内ケアプロセス形式監査を実施するなど病院機能評価で明らかとなった課題に対する業務改善に継続的に取り組んだ。

また、引き続き薬剤師を一般病棟へ配置し、薬物療法への関与による医療安全の確保や医師及び看護師の負担軽減を図った。

福岡市民病院においては、クリニカルパス専任看護師を配置することでパスを積極的に活用し、より分かりやすいインフォームド・コンセントの徹底や、ホームページへの公開による治療内容の可視化等に取り組むとともに、夜勤専従等の派遣看護師を活用して看護師を確保するなど、看護職員の負担軽減を図った。

両病院ともに、市民に信頼される安全・安心な医療を提供するため、感染症専門医や感染管理認定看護師等を中心に院内の感染防止対策の徹底を図るとともに、他病院とのカンファレンスや相互訪問ラウンドに取組むなど、医療安全対策の強化を図った。

## 第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとするべき措置

### (1) 自律性・機動性の高い運営管理体制の充実

法人運営を的確に行うため、令和6年度は計10回の理事会を開催し、理事会の方針決定に沿って自律的な運営を行った。

また、病院長のリーダーシップの下、執行部会議や経営五役会議等を開催し、医療情勢の変化や患者のニーズに対応できるよう迅速な意思決定、情報共有を図りながら、各病院の実態に即した機動性の高い病院経営に取り組むとともに、運営本部と両病院合同による経営会議の開催や経営アドバイザーを活用した法人経営改革会議の設置など法人の全体的な視点から、市立病院として適切な法人運営

に取り組んだ。

また、理事長直下の組織「企画情報推進室」において、情報システムの管理やセキュリティの強化、DX（Digital Transformation）の推進等について、機構全体で一体的にマネジメントするとともに、福岡市立こども病院においては、スマートフォンの導入による業務効率化の検討、福岡市民病院においては、要約機能があるAIボイスレコーダーの導入など、ICT（情報通信技術）の活用による業務の効率化を推進した。

#### (2) 事務部門の機能強化

資質向上を目的とした研修を実施するとともに、外部主催の中堅事務職員を対象とした講座に参加させるなど、事務職員の能力向上に努めた。

#### (3) 働きがいのある職場環境づくり

令和7年4月施行に向けた、子の看護休暇等制度の取得事由の拡充検討、介護離職防止のための相談体制の整備のほか、メンタルヘルスに関する取組をまとめた「第2次心の健康づくり計画」を策定し、安心して働き続けることができる制度の拡充に取り組んだ。

両病院において、医師や看護師のタスクシフティングに積極的に取り組み、労働時間の適正化に努めた。

#### (4) 法令遵守と公平性・透明性の確保

管理監督者に対するコンプライアンス研修やハラスメント研修を実施するとともに、全職員を対象とした個人情報保護法に関する研修や情報セキュリティ研修などにより職員の教育を徹底し、法人職員として有すべき行動規範と倫理観の確立に努めた。

しかしながら、令和6年度にパワー・ハラスメントによる懲戒処分事案が2件発生し、市民の皆様の信頼を損なうこととなったことは大変遺憾である。このため、5年度から実施している全職員を対象としたハラスメント研修を引き続き実施するとともに、6年度から新たに課長級以上を対象にマネジメントの強化等を目的とした研修を実施し再発防止に取り組んだ。

### 第3 財務内容の改善に関する目標を達成するためとするべき措置

#### (1) 持続可能な経営基盤の確立

法人経営改革会議や両病院の執行部会議等を定期的に開催し、経営状況を迅速に把握し、経営分析等を通じて、取り組むべき課題を明確にしたうえで、収益確保及び費用削減に取り組むとともに、効率的・効果的な病院経営に取り組んだ。

また、收支改善に取り組んだものの、当期純損失が発生し新たな投資財源を確保することはできなかったが、繰越積立金を活用することにより、計画的な施設整備、高額医療機器の更新や必要な医療機器の購入等、効果的な投資を行った。

## (2) 収支改善

両病院ともに、施設基準管理ソフトを活用し、適切な施設基準の取得及び維持管理に努めるとともに、業務効率化や、価格交渉や両病院の共通品や同種同効品の価格統一等による診療材料費の更なる縮減、省エネルギー化の推進などを行った。

福岡市立こども病院においては、病院幹部による患者数・手術件数等のモニタリング及び協議を行い、効率的な病棟運用の実施や院内の保険診療検討ワーキングチームを中心に査定傾向の分析に基づいた診療報酬請求プロセスの改善活動を病院全体で実施したが、診療報酬の改定によるP I C U等の入院管理料の取り下げ等により医業収益は89億7万円余で、前年度より4億円余の減となった。

福岡市民病院においては、「病床管理会議」を毎朝開催し、課題や情報の共有を行った結果、病床利用率の向上と診療報酬改定による新しい基準での重症度、医療・看護必要度を維持したほか、診療科毎のカンファレンスに医事課並びに医療事務委託会社の職員が参加し、情報提供・情報共有に努めるなどレセプト請求の精度向上に取り組み、医業収益は64億4千万円余で、前年度より5億3千万円余の増となった。

### 【医業収益】

(単位：千円)

区分	令和5年度実績	令和6年度実績 ( )は予算上の目標値	比較増減 ( )は実績－目標値
福岡市立こども病院	9,379,003	8,971,832 (9,459,551)	▲407,171 (▲487,719)
福岡市民病院	5,907,481	6,442,088 (6,356,603)	534,607 (85,485)
法人全体	15,286,484	15,413,920 (15,816,154)	127,436 (▲402,234)

### 【営業費用】

(単位：千円)

区分	令和5年度実績	令和6年度実績 ( )は予算上の目標値	比較増減 ( )は実績－目標値
福岡市立こども病院	10,888,417	11,262,113 (11,752,374)	373,696 (▲490,261)
福岡市民病院	7,462,714	7,591,325 (7,867,260)	128,611 (▲275,935)
法人全体	18,351,131	18,853,438 (19,619,634)	502,307 (▲766,196)

### 【医業収支比率(医業収益/営業費用)】

(単位：%)

区分	令和5年度実績	令和6年度実績 ( )は予算上の目標値	比較増減 ( )は実績－目標値
福岡市立こども病院	86.1	79.7 (80.2)	▲6.4 (▲0.5)
福岡市民病院	79.2	84.9 (80.3)	5.7 (4.6)
法人全体	83.3	81.8 (80.2)	▲1.5 (1.6)

【経常収支比率】 (単位：%)

区分	令和5年度実績	令和6年度実績 ( )は予算上の目標値	比較増減 ( )は実績－目標値
福岡市立こども病院	100.3	94.8 (94.8)	▲5.5 (0.0)
福岡市民病院	95.7	94.1 (89.3)	▲1.6 (4.8)
法人全体	98.5	94.5 (92.6)	▲4.0 (1.9)

(注) 計数は原則としてそれぞれ四捨五入によっているので、端数において合計とは一致しないものがある。

(注) 【医業収益】、【営業費用】令和6年度目標値は、令和6年度補正予算後の数値を記載している。

(注) 【医業収支比率】、【経常収支比率】令和6年度目標値は、令和6年度年度計画の数値を記載している。

#### 第4 その他業務運営に関する重要事項を達成するためとるべき措置

##### (1) 福岡市立こども病院における医療機能の充実

厚生労働省DPC（診断群分類）公開データにおいて、成人を含む全国のDPC病院の中で症例数が、川崎病（209例）について9年連続で全国1位となるとともに、複雑な先天性心疾患に係る難易度の高い手術症例（53例）については全国2位（前年度までは8年連続で全国1位）となるなど、順調に成果を挙げた。

また、科学研究費助成事業（文部科学省）で研究代表として採択された課題等に積極的に取り組み、19件（うち研究代表3件）の研究に参加した。

さらに、国際医療支援センターを中心に、職員の外国語能力・コミュニケーション能力の向上を目指して、医療英語・中国語・フランス語研修を開催したほか、臓器提供の申出に円滑に対応できるよう、外部講師の講演会を開催するとともに、脳死判定及び臓器提供のシミュレーションを実施した。県内大型商業施設に支援自販機（寄付型自動販売機）を設置した。

##### (2) 福岡市民病院における経営改善の推進

福岡県と改正感染症法に基づく医療措置協定を締結し、感染症発生時は病床確保、発熱外来の設置、人材の派遣を行うこととした。令和6年度はインフルエンザ・コロナについて重症化リスクのある患者の積極的な受入をした。

コロナの影響による病床確保がない年度となり、紹介患者及び救急患者の受入を強化した結果、病床稼働率は令和5年度実績値を大幅に上回った。

一方で、物価高騰の影響による経費の増により収支は厳しいものとなったが、医業収支比率・経常収支比率は年度計画の目標を上回った。

今後は、AIを用いたプログラム医療機器などの導入により高度でより安全な医療の提供を行いながら、医療DXにより経営の効率化を推進していく。

## 【主な目標値の達成状況】

区分	福岡市立こども病院			福岡市民病院		
	6年度 目標値	6年度 実績値	達成率	6年度 目標値	6年度 実績値	達成率
患者動向	1人1日当たり入院単価（円）	108,000	101,249	93.7	73,400	75,397
	1人1日当たり外来単価（円）	12,200	13,585	111.4	27,900	28,544
	1日当たり入院患者数（人） (病床利用率(%) )	205.5 (86.0)	202.3 (84.6)	98.4 (98.4)	174.0 (85.2)	176.5 (86.5)
	新規入院患者数（人）	7,400	8,000	108.1	4,770	5,013
	平均在院日数（日）※1	9.9	8.2	120.7	11.5	11.9
	1日当たり外来患者数（人）	383.0	419.9	109.6	211.0	218.7
医業活動	手術件数（件）	2,600	2,720	104.6	3,800	3,967
	救急搬送件数（件）	1,400	1,597	114.1	3,400	3,677
	紹介率(%)	90.0	101.1	112.3	110.0	110.6
	逆紹介率(%)	66.7	89.7	134.5	180.0	185.8
	薬剤管理指導件数（件）	6,500	5,368	82.6	7,150	7,032
	栄養食事指導・相談件数（件）	1,700	1,872	110.1	900	1,074
患者満足	退院時アンケートの平均評価点数 (こども病院) (100点満点)	89.0	90.2	101.3	—	—
	患者満足度調査における平均評価点数 (福岡市民病院) (100点満点)	—	—	—	90.0	91.6
経営収支	給与費対医業収益比率(%)※1	64.4	66.0	97.6	61.9	58.3
	材料費対医業収益比率(%)※1	19.6	19.9	98.5	31.7	31.6
	薬品費対医業収益比率(%)※1	6.7	8.0	83.8	10.8	11.9
	診療材料費対医業収益比率(%)※1	12.6	11.6	108.6	20.6	19.6
	委託費対医業収益比率(%)※1	12.1	11.5	105.2	8.7	8.0
	ジェネリック医薬品導入率(%)※2	85.0	78.9	92.8	88.0	88.7
	経常収支比率(%)	94.8	94.8	100.0	89.3	94.1
	医業収支比率(%)	80.2	79.7	99.4	80.3	84.9

※1 実績値が低い方が目標を達成している項目（達成率は目標値/実績値で算出）

※2 ジェネリック医薬品導入率については、数量の割合で算出している。

## 「項目別の状況」

### 第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

#### 1 医療サービス

##### (1) 良質な医療の実践

###### ア 福岡市立こども病院

- 「第一種協定指定医療機関」として、小児のコロナ感染患者に対する小児救急医療を提供した。
- 「福岡県母体搬送コーディネーター事業」の中核病院として、切迫早産等の新生児病床を必要とする緊急母体搬送症例を積極的に受け入れる（6年度90件、5年度101件）とともに、ドクターカーによる新生児の迎え搬送を積極的に行う（6年度126件、5年度96件）など、地域における周産期救急搬送体制の一翼を担った。
- 移行期支援外来（たけのこ外来）において、「たけのこ外来予約枠」を活用し、移行期患者教育プログラムを着実に実施（6年度136人、5年度48人）するとともに、移行期支援のプレ期となる12歳以上の患者及び患者家族に対して、移行期支援外来の目的やセルフケアの確立に向けての教育を行った。（6年度13人、5年度6人）。  
また、こどもアレルギーセンターにおいて、P A E（小児アレルギーエデュケーター）を中心に、食物アレルギー、喘息及びアトピー性皮膚炎の成人移行支援パスの作成に着手した。
- 福岡県等が実施する「小児慢性特定疾病児童等レスパイト支援事業」に引き続き参加し、医療的ケア児のレスパイト入院を受け入れた（6年度6人、延べ27日、5年度9人、延べ38日）。
- 引き続き、看護師、M S W（医療ソーシャルワーカー）等の多職種協働による「入退院支援推進チーム」により、8診療科（眼科・耳鼻いんこう科・小児外科・泌尿器科・循環器科・皮膚科・脳神経外科、形成外科）の入院予定患者（6年度延べ3,439人、5年度延べ2,582人）に対して、患者情報の聴取や入院に関する情報提供等の入院支援を実施した。
- フォーミュラリーについては、昨今の医薬品供給不足問題が継続しており、既存のフォーミュラリーの十分な活用ができなかつたが、新たに抗インフルエンザ薬のフォーミュラリーを作成し、エビデンスと経済性に基づく小児薬物治療の更なる適正使用を図った。  
また、バイオシミラー医薬品については、適応が先発薬と異なることが要因となり、積極的な導入はできなかつた。
- 患者の包括的な成長・発達支援及び入院生活支援等を目的として、4月にこども支援室を設置した。

【目標に係る実績値】

	令和6年度 目標値	令和6年度 実績値
1人1日当たり入院単価（円）	108,000	101,249
1日当たり入院患者数（人） (病床利用率(%) )	205.5 (86.0)	202.3 (84.6)
新規入院患者数（人）	7,400	8,000
手術件数（件）	2,600	2,720
救急搬送件数（件）	1,400	1,597
P I C U (小児集中治療室) 利用率 (%)	95.8	92.2
N I C U (新生児集中治療室) 利用率 (%)	97.0	97.9

イ 福岡市民病院

- コロナ対応については令和5年度で病床確保等の特例措置が終わり、令和6年度は通常通りの病棟運用に戻った。感染症についてはコロナ、インフルエンザ等への対応を継続しながら高度専門医療・救急医療の安定的な提供に取り組んだ。医師の働き方改革の影響により、他施設で受入が困難となった軽症の救急患者の受入が増加したことでの救急搬送患者の入院率は目標を下回ったが他の指標については目標を大きく上回った。
- リウマチ・膠原病内科を設置し、難治性免疫疾患である遺伝性血管性浮腫（H A E）の専門外来を開始した。また遺伝性血管性浮腫（H A E）について広く全国の患者に対応できるようオンライン診療を開始した。

循環器内科においては、非侵襲的に冠動脈CT画像からAIによる解析を行い、狭窄を調べるFFRct（※1）、通常はワイヤーや薬剤を使用する必要があるFFR（冠血流予備量比（Fractional Flow Reserve））値の算出を冠動脈造影画像から非侵襲的に行うFFRアンギオ（※2）など患者への負担軽減となる新しい技術の導入を積極的に行った。

消化管外科、肝臓外科の医師の配置人員の逼迫は続いたが、腹腔鏡下手術等の高度な手術に取り組み、手術件数は目標を上回った（腹腔鏡下手術：6年度283件、5年度286件）。

脳卒中、循環器疾患については、医師、救急救命士同乗での迎え搬送を実施し医療の質向上に貢献した。

(※1) FFRct

CT画像を解析することで、冠動脈の狭窄と血流を同時に評価できる検査法

(※2) FFRアンギオ

冠動脈造影検査（CAG）と合わせて行われる冠血流予備量比（FFR）の測定

- 救急患者の受入体制について、救急委員会で効率的な受入体制や、医師、看護師の負担軽減等を行い、「断らない救急」の徹底に取り組んだ結果、救急搬送件数は目標値を大きく上回った。

【目標に係る実績値】

	令和6年度 目標値	令和6年度 実績値
1人1日当たり入院単価（円）	73,400	75,397
1日当たり入院患者数（人） (病床利用率(%) )	174.0 (85.2)	176.5 (86.5)
新規入院患者数（人）	4,770	5,013
手術件数（件）	3,800	3,967
救急搬送件数（件）	3,400	3,677
救急搬送患者の入院率（%）	43.6	42.2

(2) 地域医療への貢献と医療連携の推進

ア 福岡市立こども病院

- 病病・病診連携や在宅医療・小児慢性特定疾患における多職種連携を推進するとともに、「こども病院カンファレンス」等のオープンカンファレンスを開催するなど、地域の医療従事者への教育研修等を通じた地域医療への貢献に取り組んだ。
- 在宅医療を担う医療機関等の拡充を図るための人材育成を目的とした小児等地域療育支援病院研修会（テーマ：「在宅人工呼吸器管理、在宅医との連携について」「当院の入退院支援調整について」「社会保障制度について」の講義と当NICU・GCUにおける家族指導・医療的ケアの見学）及び医療型・福祉型の短期入所施設や特別支援学校の職員を対象とした研修会（テーマ：「てんかんのレスキュー薬について」）を各1回開催するとともに、在宅移行支援の一環として、退院前訪問2回及び退院後訪問を2回実施し、患者宅の環境調整及び療養上必要な指導を行うなど、「福岡県小児等在宅医療推進事業」の拠点病院としての役割遂行に努めた。

前方連携の強化を目的として、登録医宛にニュースレターを送付（4回）し、こどもアレルギーセンターに関する情報提供や当院の取組、研修会等の案内を行った。

イ 福岡市民病院

- 東部オープンカンファレンスを令和6年度4回開催し、外部から延べ167人の参加があった。

また、令和6年度は連携先医療機関への積極的な訪問を行い、延べ183医療機関の訪問を実施し、病病・病診連携のための情報共有を行った。

5期目となる看護師の特定行為研修は、外部からの受講生として地域の医療機関から看護師を2人受け入れ、院内の受講生と合わせ3人で開講し、全員が無事に修了した。

- 地域包括ケアシステムにおいては、入院前から外来・病棟・退院支援部門との多職種連携を図り、早期介入による在宅療養支援の充実に取り組むとともに、

在宅医療・介護スタッフとの情報共有や在宅スタッフとの退院前カンファレンスを積極的に行うことで、在宅療養支援における質の向上を図った（退院前カンファレンス件数：6年度73件、5年度67件）。

救急救命士による連携医療機関からの緊急転院搬送を開始し、53件実施した。

また脳卒中、循環器疾患が疑われる患者については、医師が搬送車に同乗して紹介元医療機関へ迎え搬送をすることで、より安心で安全な医療連携に貢献した。

- 福岡市歯科医師会と連携し、歯科医師会から派遣された歯科衛生士と当院の摂食嚥下認定看護師が協働で、入院患者の口腔アセスメントのラウンドを実施し、全身と口腔の維持・改善、重症化予防を図った（ラウンド実施件数155件（132名）。

#### 【目標に係る実績値】

指 標	福岡市立こども病院		福岡市民病院	
	令和6年度 目標値	令和6年度 実績値	令和6年度 目標値	令和6年度 実績値
新規紹介患者数（人）	7,570	9,083	5,000	4,693
紹介率（%）	90.0	101.1	110.0	110.6
逆紹介率（%）	66.7	89.7	180.0	185.8
オープン カンファ レンス	回数（回）	30	35	28
	参加者数（人）	800	682	373
登録医療機関数（施設）	285	285	290	329
退院支援計画件数(件)	210	197	—	—
退院調整件数(件)	—	—	1,350	1,546

### (3) 災害・感染症等への適切な対応

#### ア 福岡市立こども病院

- 災害発生に備え、消防計画に基づく防災訓練及び緊急時参集システムを使用した災害時参集訓練（各2回）を実施するとともに、大規模災害訓練については、高潮災害を想定した発災前から発災後復旧までの、各部署における災害タイムラインの作成から検証を主体とした訓練を実施し、職員の災害対応力の向上を図った。
- B C P（事業継続計画）における高潮避難計画の更新を行うとともに、半年毎に非常用発電設備及び備蓄物品等の点検を行い、災害発生時の万全な対応に備えた。
- 「第一種協定指定医療機関」として、小児のコロナ感染患者に対する小児救急医療を提供した。（再掲）
- 小児感染症医療の提供体制を確保するためにN95マスク等のP P E（個人用防護具）や消毒液等の必要在庫の確保と適正管理に努めた。

- B C P 策定研修（厚生労働省主催）、災害医療ロジスティクス研修（熊本大学病院）等の外部研修に職員を派遣（延べ9人）し、危機対応能力を持った職員の育成に取り組んだ。

また、高潮災害に備え、非常用発電機用の燃料ポンプ室の防水工事を行うなど、施設・設備の減災に係る取組を行った。

**【目標に係る実績値】**

指標	令和6年度 目標値	令和6年度 実績値
訓練開催数（回）	5	5
災害時参集訓練参加率（%）	90.0	99.8

**イ 福岡市民病院**

- 市立病院としての役割を果たすため、災害発生に備え、緊急時参集システムを使用した災害時参集訓練を2回実施し、職員の防災意識及び対応力を高めるとともに、B C P（事業継続計画）や災害時の患者対応フローの見直しを行った。併せて非常用発電設備及び備蓄物品の点検等を徹底した。また、消防総合訓練については、10月には当院として初めて実践に即した図上訓練を実施するとともに、3月には博多消防署との合同で、より実践的なはしご車による患者搬送などの訓練を行った。
- 12月に感染症対応を目的として、福岡空港検疫所支所、福岡市保健所、福岡市民病院での合同訓練（机上・実動）を行った。福岡空港での検疫時にM E R S（中東呼吸器症候群）疑似症患者の発見を想定し、発見から医療機関への搬送・受入までの一連の対応手順の確認・検証を通じ、連携強化及び危機管理体制強化を図った。
- J P T E C (Japan Prehospital Trauma Evaluation and Care) プロバイダーコースに講師として看護師2名の派遣を行った。

**※ J P T E C**

我が国のすべての病院前救護にかかわる人々が習得すべき知識と体得すべき技能が盛り込まれた活動指針

- M C L S (Mass Casualty Life Support：多数傷病者への医療対応) プロバイダーコース・インストラクターコースに講師として医師1名（延べ2回）の派遣を行った。
- 感染管理認定看護師の段階的な増員について、令和5年度に資格を取得した感染管理認定看護師については令和6年度より専任配置となった。また認定看護師教育課程を受講していた1名については同課程を修了し、令和7年度に資格試験を受験する予定である。

**【目標に係る実績値】**

指標	令和6年度 目標値	令和6年度 実績値
訓練開催数（回）	5	5
災害時参集訓練参加率（%）	90.0	100.0

## 2 患者サービス

### (1) 患者サービスの向上

#### ア 福岡市立こども病院

- 6月に外部の弁当宅配サービスを開始し、入院付添者の利便性の向上を図るとともに、11月に患者本人向けの退院時アンケートを開始するなど、患者及び患者家族の要望をより反映できるよう体制を強化した。
- 患者及び患者家族の利便性の向上を図るため、4月にスマートフォンアプリを利用した患者呼出システムの本格運用を開始した。
- 引き続き地元プロスポーツ球団等の病棟慰問やボランティア団体によるロビーコンサート等のイベントについて実施したほか、ボランティアとの協同によるクリスマス会や入院中の子どもと家族のための家族写真撮影会を開催するなど、患者サービスの向上を図った。
- 医療・福祉・療育に関する相談や在宅療養生活への支援、転医・転院等に関する相談について、相談支援窓口において、適宜適切な対応を行った。（6年度 13,006件）
- N I C U及びG C Uの窓ガラスへの遮光カーテンや遮光フィルムの取付け、5階東病棟の共用シャワー室の手摺の増設など、患者の療養環境の改善を図った。

**【目標に係る実績値】**

指標	令和6年度 目標値	令和6年度 実績値
退院時アンケートの平均評価点数（100点満点）	89.0	90.2

※対象者・・・入院患者

※評価項目・・・接遇、療養環境、食事内容等

#### イ 福岡市民病院

- 患者満足度調査を毎月実施し、患者のニーズを把握するとともに、職員の接遇に関する指摘等に対しては、当該職員及びその所属長へフィードバックして指導を行うなど、改善を図った。

年に2回、夏と冬に外来アンケートを行っているが、7月のアンケートにおいて会計に時間がかかるとの指摘を受けたため、令和7年1月にクレジットカード決済端末を1台増やし、計2台で会計処理が円滑に進むよう、改善を図った。

また、患者からの指摘・意見に対しては「病院へのご意見・ご要望」と題した該当部署からの回答を院内各所へ掲示することで、令和7年1月より医療サービスの質向上に向けた活動に取り組んだ。

- 患者・家族等からの医療・福祉に関する相談等（6年度2,505件）について、患者サポート相談窓口を中心に適切に対応した。
- 病棟内の療養環境改善のため、床頭台のテレビの更新を行った。また、感染対策の観点から、紙コップを使用できるティーサーバーを引き続き設置している。
- 福岡市が進めている分身ロボット「OriHime（オリヒメ）」を活用した実証事業に協力し、外出が困難な重度障がい者等4人が交替でロボットの遠隔操作による総合案内業務を行った。

#### 【目標に係る実績値】

指標	令和6年度 目標値	令和6年度 実績値
患者満足度調査における平均評価点数（100点満点）	90.0	91.6

※対象者・・・入院患者

※評価項目・・・接遇、療養環境、食事内容、診療内容等

## （2）情報発信

### ア 福岡市立こども病院

- 登録医宛にニュースレターを送付し、当院の取組や研修会等の案内を行うとともに、「病院指標」をホームページに公開し、一般の人にも分かりやすい解説を行った。

また、患者用クリニカルパスの更なる充実を図り、当該クリニカルパスの公開による治療内容の可視化を実施した（公開パス数：6年度15疾患、5年度15疾患）。

- ホームページのアクセス状況の解析結果を基に、情報が探しやすいホームページとなるよう改修を行うとともに、子どもを対象としたコンテンツ「子どものページ」の充実を図るため、プレパレーション動画を新たに5つ作成・公開した。

- SNS（ソーシャルネットワーキングサービス）を活用して、院内イベント等に係る情報発信を行った（LINE13回、Facebook40回、Instagram42回）。

また、地域住民を対象に、育児への関心を高めるための取組として、地元の公民館と共同で、「こども病院生涯学習講座CGG（Child Grandchild Good-Care）」を2回開催した（7月テーマ：「歯の科学 “なぜむし歯になるの？”」、参加者：25人、2月テーマ：「電子メディアと育児～スマホ育児が与える影響と対策～」、参加者：34人）。

10月には、福岡市総合体育館で開催されたアイランドシティフェスティバルに参加して、病院のドクターカーを展示し、車載搭載機器の説明をするなど情

報発信を行った（参加者：436人）。

- 「こどもアレルギーセンター」において、アレルギー疾患に係る知識向上を目的とした講演会を計3回開催した（参加者延べ152人）。
- 多くの子育て中の保護者に、子どもの病気や正しい対処法等の情報を届けることを目的として、専門医による新聞コラムを計10回掲載した。

#### イ 福岡市民病院

- SNS（ソーシャルネットワーキングサービス）の活用としてInstagramの利用を7月から開始し、感染症予防、脳卒中の早期発見や職員採用に関する投稿を行った。
- 地域住民の健康意識の向上と、地域に根差した情報発信を目的として出前講座を開催した（6年度1施設、14人参加）。
- 福岡市民の健康の維持・増進、また広く医療に関する情報提供を行うことを目的として市政だよりに当院の医師による情報発信が掲載された（6月リウマチ月間、7月熱中症予防）。発行部数も多く、公共性の観点からも有用であったと考える。
- 西日本新聞（6月リウマチ月間、8月熱中症予防、12月マイナ保険証、1月感染症）、読売新聞（1月MERS（中東呼吸器症候群）合同訓練）で計5回当院の記事が掲載された。

#### 【目標に係る実績値】

指標	福岡市立こども病院		福岡市民病院	
	令和6年度 目標値	令和6年度 実績値	令和6年度 目標値	令和6年度 実績値
病院ホームページ のアクセス数(件)	320,000	350,355	130,000	146,039
広報誌発行回数 (回)	4	4	4	4

### 3 医療の質の向上

#### (1) 病院スタッフの計画的な確保と教育・研修

##### ア 福岡市立こども病院

- 初期研修医や医学部学生を対象とした「Fukukokai CHOPPS (Children's Hospital Practical Pediatric Seminar)」を開催し、意欲ある研修医等の確保に努めた（6年度3回開催、延べ33人参加、5年度3回開催、延べ70人参加）。

看護学生の実習（延べ2,245人）を積極的に受け入れるとともに、看護学生等を対象とした「病院説明会・見学会」を11回開催し、延べ180人（5年度7回開催、延べ214人参加）の参加を得るなど、意欲ある人材の確保に努めた。

また、専従教育担当職員が中心となり、新人看護職員を対象とした研修を計画的に開催し、看護職員の資質向上に努めるとともに、他施設に従事する新人看護職員を対象にした小児看護研修を1回開催し、29人(5年度1回開催延べ22人参加)の参加を得るなど、小児専門病院としての役割遂行に努めた。

- 新規採用職員を対象とした情報セキュリティ・倫理・医療接遇・心理的安全性等の研修を行うとともに、全職員を対象に医療の質向上研修(テーマ:「苦情対応のポイント」)を実施した。
- 専門職としての知識・技術の向上を図るため、認定看護師等資格取得支援制度の活用を促進し、令和6年度は「皮膚・排泄ケア認定看護教育課程(A課程)」の修了(1人)、令和7年度特定行為研修(集中治療)の受講(1人)及び認定看護師養成課程「感染管理」B課程の受講が決定するなど、有資格者の拡大に努めたほか、各種学会や研修の費用(延べ392名)、診療放射線技師、臨床検査技師及び臨床工学技士の告示研修の受講に係る支援を行った(計13人)。

#### イ 福岡市民病院

- 看護師については、産・育休取得者の代替として、派遣会社からの夜勤専従等の派遣看護師を活用することで看護師確保に努め、7対1看護基準を維持しながら、看護職員の負担軽減を図った。また、外部の就職説明会ヘブースを出して参加したり、病院見学会を開催の際は看護部作成のPR動画を活用したり、採用活動に積極的に取り組んだ。併せて、意欲ある人材を確保するため、感染予防対策を十分に行った上で、看護学校実習生を延1,503人(4校)受け入れた。

職員の育児休業等による欠員に対して、代替職員の配置を適宜行うなど職種ごとの定数管理を確実に行った。

医師の働き方改革については、リアルタイムに時間外労働時間を把握しながら、A水準を維持するため、働き方改革コアメンバー会議にて適正な労働時間管理を実施した。

院内のワーク・ライフ・バランス推進委員会において、引き続き、年次有給休暇の取得率向上に向けた周知活動に取り組むなど、職員がやりがいや充実感を感じる職場環境づくりを推進した(看護職員離職率:6年度7.6%、5年度8.9%、4年度7.3%)。

- 集合研修や、オンラインイベントシステムを活用したWeb研修、勉強会等を院内で適宜開催するとともに、職員へ外部研修の積極的な参加を促進するなど、職員の資質向上に取り組んだ。
- 専門職としての知識や技術の向上を図るため、認定看護師等資格取得支援制度を活用するとともに、職務に必要な資格取得や研修受講等を積極的に促進した。当院で開講する特定行為研修についても、3人(栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連:2人、術中麻酔管理領域:1人)の受講が修了した。

また、2人が院外での特定行為研修受講を修了した(感染に係る薬剤投与関連:1人、精神及び神経症状に係る薬剤投与関連:1人)。

## 【目標に係る実績値】

(単位：%)

指標	福岡市立こども病院		福岡市民病院	
	令和6年度 目標値	令和6年度 実績値	令和6年度 目標値	令和6年度 実績値
医療の質向上 研修受講率	90.0	99.7	90.0	100.0

## (2) 信頼される医療の実践

## ア 福岡市立こども病院

- 専従の感染管理認定看護師を配置した感染対策室、院内感染対策委員会及び感染制御チーム（ＩＣＴ）の連携を推進するとともに、地域の医療機関とのカンファレンスを4回、相互訪問ラウンドを2回実施するなど、感染防止対策の強化を図った。

また、医療安全管理室では、新入職員に対するTeam S T E P P S®研修や、Team S T E P P S®スキルを活用したインシデントの振り返りを推進するとともに、全職員を対象とした研修会やキャンペーンを開催し、医療安全対策の強化を図った。

- 職員向けクリニカルパス勉強会を1回（5年度1回）開催し、クリニカルパス委員会を中心とした普及・啓発活動を行った結果、クリニカルパスの数が増加した（6年度65種類、67疾患、5年度58種類、60疾患）。退院患者の47.0%（5年度45.3%）に使用され、ケアの標準化、均質化が図られた結果、医療の質に寄与した。

- 診療録の記載内容に係る改善活動として、院内のケアプロセス形式監査を3回実施するなど、令和3年5月に認定を受けた病院機能評価で明らかとなつた課題に対する業務改善に継続的に取り組んだ。

管理栄養士による栄養食事指導・相談については目標値を大幅に上回るなど、積極的に取り組んだ。

また、引き続き一般病棟にも薬剤師を配置し、薬剤師の薬物療法への関与による医療安全の確保や医師及び看護師の負担軽減を図った。

## イ 福岡市民病院

- 感染症専門医を中心に、院内感染対策委員会及び感染制御チーム（ＩＣＴ）の連携により院内感染防止対策を徹底するとともに、他病院との共同カンファレンス（3回）や相互ラウンド（2回）等を通じて、耐性菌検出状況や抗菌薬適正使用への取組、感染対策に関する情報交換、第三者的視点からの相互評価等を行った。

また、医療安全対策地域連携ネットワークにおいて、参加施設間での意見交換・相互評価を実施（3回）し、自院だけでなく地域における医療安全対策の質の向上に取り組んだ。

- クリニカルパス専任看護師を配置することで医療の質の向上を目的としたパスを積極的に活用し、より分かりやすいインフォームド・コンセントの徹底やホームページへの公開（公開パス数：6年度104疾患）による治療内容の可視化等、患者中心の医療を実践した。
- 公益財団法人日本医療機能評価機構が実施する病院機能評価について、令和7年度中の更新に向けて、各評価項目について確認を行い改善に努めた。

**【目標に係る実績値】**

指 標	福岡市立こども病院		福岡市民病院	
	令和6年度 目標値	令和6年度 実績値	令和6年度 目標値	令和6年度 実績値
医療安全等の研修開催数（回）	35	53	25	25
薬剤管理指導件数（件）	6,500	5,368	7,150	7,032
栄養食事指導・相談件数（件）	1,700	1,872	900	1,074
がん患者指導件数（件）	—	—	90	102

## 第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置

### 1 自律性・機動性の高い運営管理体制の充実

- 法人運営を的確に行うため、理事会を計10回開催し、理事会の決定方針に沿って自律的な運営を行った。なお、必要に応じてWeb会議による参加の対応など運営に支障がないよう対応した。
- 両病院ともに、病院長のリーダーシップの下、医療情勢の変化や患者のニーズに対応ができるよう、執行部会議（福岡市立こども病院）や経営五役会議（福岡市民病院）等を定期的に開催し、迅速な協議や意思決定、情報の共有化を図るとともに、病院の実態に則した機動性の高い病院経営に取り組んだ。

また、運営本部と両病院合同による経営会議を毎月開催し、経営状況の把握や年度計画の進捗状況等を管理し、法人の全体的な視点から、経済性・効率性の追求を徹底するなど、適切な法人運営に取り組んだ。

さらに、令和6年12月に法人内に設置した法人経営改革会議において、経営アドバイザーを活用した各病院の収支の分析を行い、収支改善に向けた課題の洗い出しを始めた。

理事長直下の組織「企画情報推進室」において、情報システムの管理や各病院の病院情報システムのサイバーセキュリティに関するBCPの策定などのセキュリティの強化、DX（Digital Transformation）の推進等について、機構全体で一体的にマネジメントするとともに、全職員を対象とした情報セキュリティに関するeラーニング研修の実施などITリテラシーの向上を図った。

福岡市立こども病院では、S a T（戦略的分析チーム）において、スマートフォンの導入による業務効率化の検討を開始した。

福岡市民病院では、要約機能があるA Iボイスレコーダーを導入した。従前より文字起こしの精度も向上し、看護部の議事録等の作成時間を短縮することが出来た。

## 2 事務部門の機能強化

- 市立病院の運営に必要なノウハウ等が蓄積・継続されるよう、運営本部及び両病院の経理担当者会議等を行った。
- 主任級職員については、主任として求められる役割の理解とコミュニケーション能力及び判断力等の向上を目的として、昇任者及び昇任後5年目以上の職員を対象にした外部講師による研修を実施した（受講人数26人）。

また、係長級職員についても、監督者に求められる役割の理解と人材育成マネジメント能力等の向上を目的として、昇任者及び昇任後5年目以上の職員を対象にした外部講師による研修を実施した（受講人数12人）。

令和6年度は、課長級及び部長級職員に対し、管理者としてのマネジメント力の強化を目指すとともに、業務目標達成のために必要な手法や部下育成について学び組織力を強化するため、外部講師による研修を実施した（受講人数16人）。

さらに、全職員を対象に情報セキュリティに関する知識のみならず、インターネットや各種デバイスの利用方法等をIT基礎知識の確認としてテストを実施し、ITリテラシーの向上を図った。

事務部門全体の機能強化及び職員のキャリアプランを踏まえ、運営本部及び両病院間における人事異動を実施した。

福岡市立こども病院においては、中堅職員を全国地方独立行政法人病院協議会「事務職員向けセミナー」及び「事務責任者会議」に参加させるなど、事務職員の能力向上に努めた。

福岡市民病院においても、中堅職員を対象とした講座に複数名参加するとともに、「厚生局の適時調査に対応するための勉強会」や「診療報酬改定に関するセミナー」、「福岡県院内がん登録研修会」への参加など積極的に行い、事務職員の能力向上を図った。

## 3 働きがいのある職場環境づくり

- 令和7年4月施行に向けた、子の看護休暇等制度の取得事由の拡充検討、介護離職防止のための相談体制の整備及びその周知・意向確認を行うためのリーフレットやハンドブック作成準備を行うなど、安心して働き続けることができる制度の充実に取り組んだ。

福岡市立こども病院においては、院内のグループウェア等を活用し、育児・介護等の支援制度や休暇取得推奨の周知に努めた。

また、引き続き職員への福利厚生や育児・介護等の支援制度の周知を目的とした総務課通信を1回発行した。

○ 福岡市立こども病院においては、看護師による末梢静脈注射や動脈ライン採血の実施など、医師のタスクシフティングに取り組むとともに、臨床工学技士による夜間の呼吸器回路組立、ホスピタルプレイスペシャリストの配置など、看護師のタスクシフティングに積極的に取り組んだ。

また、超過勤務時間数の多い医師に対して、外部医師による面談のシステムを取り入れるなど、医師のメンタルヘルス対策に取り組んだ。

さらに、ハラスマントに関するアンケートを実施したほか、厚生労働省の啓発ポスターを掲示するなど、ハラスマント防止に向けた意識醸成を図るとともに、外部の専門家による相談窓口の周知を徹底し、職員が安心して相談できる環境づくりに取り組んだ。

福岡市民病院においては、医師の業務負担軽減を目的として6月に、病院日当直の医師と研修医を対象に二交代制を導入するとともに、「働き方改革コアメンバー会議」にて時間外労働のモニタリング及び分析を毎月実施し、適正な労働時間管理に継続して取り組んだ。また、医師のタスクシフティングについては、特定行為の研修を修了した看護師による実務について、従来から実施している気管カニューレの交換に加え、動脈ラインの確保や採血を開始するなど、実践の拡大に取り組んだほか、これまで外科医師が行っていた腹腔鏡下での手術時のカメラ操作を臨床工学技士が実施する、放射線技師がCT造影剤注入時の見守りを必要時には放射線科医師に確認を取りながら随時実施するなどの取組みも開始した。さらに、医療用画像管理システムの更新によりAIを活用した画像診断が可能になり、医師の負担軽減を図った。

看護師については、各病棟に専属で配置したクラークへ、窓口や電話対応、入退院名簿作成などの事務作業をタスクシフティングしたほか、看護計画マスターの導入、患者向けの入院案内説明動画の作成等により、業務負担軽減に取り組んでいる。

機構全体として、「心の健康づくり計画」に基づき、毎月のメンタルヘルスの基礎知識の発行や、eラーニング、ストレスチェックの実施など職員のメンタルサポートに努めるとともに、策定して5年が経過する「心の健康づくり計画」について見直しを行い、「第2次心の健康づくり計画」を策定した。

令和5年度から、ハラスマント防止に向けた意識醸成を図るため、全職員を対象とした研修を実施しているが、6年度からは、課長級以上を対象に、マネジメントの強化等を目的とした外部講師による研修を新たに実施している。また、職員アンケート結果を踏まえ、福岡市立こども病院に設置していた外部の専門家による相談窓口を法人全体で活用できるように拡充した。

○ 医師及び管理職を対象とした人事評価制度については、引き続き評価結果を業績手当へ反映するなど、職員のモチベーションの維持・向上を図った。

#### 【目標に係る実績値】

(単位：%)

指標	市立病院機構全体	
	令和6年度 目標値	令和6年度 実績値
新採・転入職員とのメンタルヘルス面談実施率	90.0	100.0

#### 4 法令遵守と公平性・透明性の確保

- 管理監督者については、コンプライアンス研修やハラスメント研修を実施しており、様々な機会を通じて職員の服務規律の指導を徹底し、法人職員として有すべき行動規範と倫理観の確立に努めた。

しかしながら、令和6年度にパワー・ハラスメントによる懲戒処分事案が2件発生し、患者様を始め、市民の皆様の信頼を損なうこととなつたことは大変遺憾である。

法人全体の業務の適正化及び効率化の観点から、監事（弁護士、公認会計士）による監査を受け、法令等に従い適正に実施されていると報告を受けた。

- 個人情報保護及び情報公開に関しては、個人情報保護法に関する全職員向けの研修及び両病院、運営本部に対して監査を実施した。全職員に対する情報セキュリティ基礎知識の確認テストを用いた情報セキュリティ研修を開催して職員の教育を徹底するなど、関係法令や福岡市の条例及び当法人の情報セキュリティポリシー等に基づき、適切に対応した。

また、カルテ等の開示請求に対しては、診療録（カルテ）開示委員会で開示の可否を適切に決定した（福岡市立こども病院39件、福岡市民病院51件）。

#### 【目標に係る実績値】

(単位：%)

指標	市立病院機構全体	
	令和6年度 目標値	令和6年度 実績値
コンプライアンス研修受講率	100	100.0
情報セキュリティ研修受講率	100	99.6

### 第3 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置

#### 1 持続可能な経営基盤の確立

##### (1) 経営基盤の安定化と運営費負担金の適正化

###### ア 福岡市立こども病院

- 執行部会議や運営会議を定期的に開催し、令和6年度に行われた診療報酬の改定によるP I C U等の入院管理料の取り下げ等の厳しい状況に対して、効率・効果的な病院経営について検討を重ね、決定事項等については迅速に所属長へ周知し、対策に取り組んだ。

###### イ 福岡市民病院

- 令和6年度診療報酬改定でより厳しくなった入院料に係る施設基準の要件を満たしながら、急性期病院としての機能を維持するために、高度な手術が必要な新規入院患者を積極的に受け入れ、救急搬送件数の増加に取り組んだ。急性

期を脱した患者の転院・退院調整等については、インフルエンザ等の感染症の影響を受け難しい時期もあったが、積極的に行い、病床の稼働率を維持した。

紹介・救急患者の受入れを積極的に行い、病床利用率は 86.5%と令和5年度の 76.3%から引き続き改善傾向にある。それに伴い医業収益も増加している。

#### 【目標に係る実績値】

(単位：%)

指標	福岡市立こども病院		福岡市民病院	
	令和6年度目標値	令和6年度実績値	令和6年度目標値	令和6年度実績値
経常収支比率	94.8	94.8	89.3	94.1
医業収支比率	80.2	79.7	80.3	84.9

#### (2) 投資財源の確保

- 収支改善に取り組んだものの、令和6年度は当期純損失が発生し新たな投資財源の確保ができなかったが、繰越積立金を活用することにより計画的な施設整備、高額医療機器の更新や必要な医療機器の購入等、効果的な投資を行った。

### 2 収支改善

#### (1) 収益確保

##### ア 福岡市立こども病院

- 毎週行われる執行部会議において、各センター長を含む病院幹部による患者数・手術件数等のモニタリング及び協議を行い、効率的な病棟運用の施策を講じるとともに、院内に設置した経営改善チームを中心に、収支改善に向けた課題を洗い出し、積極的に改善策の実行に努めた。

国や県の各種補助金の把握に努め、申請事務を適切に行うことにより、収益の確保を図った。

- 施設基準管理ソフトを活用し、増収に繋がる施設基準の取得及び維持管理を図るとともに、院内の保険診療検討ワーキングチームを中心に、査定傾向の分析に基づいて、診療報酬請求プロセスの改善活動を病院全体で実施した結果、二次査定率を低い水準に抑えることができた（6年度 0.18%、5年度 0.18%）。

医療費の未収金については、患者相談を適宜実施し、経済状況に合わせて分納や後日支払い等の働きかけを行うことで未然に発生を防止するとともに、マニュアルに沿った対応（内容証明郵便による催告など）を行い、それでもなお回収困難な事例については弁護士事務所に委託して、確実な回収を図った。

##### イ 福岡市民病院

- 副院長をリーダーとする「病床管理会議」を毎朝開催し、救急搬送患者の受入れに係る課題の共有や、病床管理システムを活用した効率的なベットコントロールを促進するとともに、特に病床利用率の向上と重症度、医療・看護必要度の維持に向けた様々な取組について情報共有を行った結果、診療報酬改定で6月から

変更された新しい基準でも一般病棟の重症度、医療・看護必要度を維持することができた。

- 令和6年度診療報酬改定にあたり、施設基準管理ソフトを活用して、既存並びに新設の届出への対応を滞りなく行った。入院料（一般病棟、ICU、CCU）に係る新たな重症度、看護必要度への対応については、綿密なシミュレーションを実施し維持管理に努めた。特に、CCUについては診療科長主導のもと協議を重ね、上位基準であるハイケアユニット入院医療管理料1の届出を可能とした。

また、毎月の査定内容に基づくレセプトチェックシステムのカスタマイズを適宜行うとともに、査定減対策として診療科毎のカンファレンスに医事課並びに医療事務委託会社の職員が参加し、情報提供・情報共有に努めるなど、レセプトの請求精度向上に取り組んだ結果、5年度査定率0.49%から0.39%へと改善した。6年度より、診療科カンファレンス等で周知した内容を研修動画としてまとめ、視聴後にテストを実施することで理解度を図る試みを開始した。

未収金については、未収金対応マニュアルに沿って、電話及び文書による段階を経た督促や分納相談等により確実に回収を行うとともに、回収困難案件については法律事務所への業務委託を継続し、確実な回収を図った。

#### 【目標に係る実績値】＊再掲

指標	福岡市立こども病院		福岡市民病院	
	令和6年度目標値	令和6年度実績値	令和6年度目標値	令和6年度実績値
1人1日当たり入院単価（円）*	108,000	101,249	73,400	75,397
1人1日当たり外来単価（円）	12,200	13,585	27,900	28,544
1日当たり入院患者数（人）*(病床利用率(%))*	205.5 (86.0)	202.3 (84.6)	174.0 (85.2)	176.5 (86.5)
新規入院患者数（人）*	7,400	8,000	4,770	5,013
平均在院日数（日）	9.9	8.2	11.5	11.9
1日当たり外来患者数（人）	383.0	419.9	211.0	218.7
手術件数（件）*	2,600	2,720	3,800	3,967
救急搬送件数（件）*	1,400	1,597	3,400	3,677

#### (2) 費用削減

##### ア 福岡市立こども病院

- 労務管理システムの活用により、超過勤務時間や年次有給休暇等の入力及び集計業務の効率化を図った。
- 診療材料については、積極的にSPD（医療材料物流管理）受託業者と連携し、全部署の協力のもと、市民病院と同種同効品の統一を行ったほか、同一の診療材料で納入価が異なっていたものについては、低価格の方に価格を統一するなど、両病院の診療材料委員会を中心に徹底した価格交渉を行った結果、診療材料費を約3,530万円削減することが可能となった（削減額は、SPD委託

契約前年度（令和元年度）の購入単価を基準として算出）。

また、光熱費についても、省エネルギー推進委員会を中心に、節電に対する啓発活動を行い、病院全体で費用削減に取り組んだ。

- PFI（Private Finance Initiative）事業者から予防保全を前提に提案・策定された修繕更新計画を基に、PFIのノウハウを活用し、建物・設備の長寿命化と維持・修繕費用の縮減を図った。

また、PFI事業期間終了以降の施設・設備の管理手法のあり方について、先行して進めている他病院へ照会等を行うなど、PFI事業期間終了以降の病院施設・設備管理手法の検討に着手した。

#### イ 福岡市民病院

- 手術時の麻酔に関する説明動画を作成し活用することで、医師と看護師の患者説明に関する時間を削減した。4月から開始し、1カ月あたり約20時間の業務が削減できた。

労務管理システムの活用により、超過勤務時間や年次有給休暇等の入力及び集計業務の効率化を図った。

- SPD（医療材料物流管理）事業者と連携し、コンサルタントやSPD（医療材料物流管理）事業者のベンチマーク分析をもとに、診療材料に係る価格交渉を実施した。また、こども病院と診療材料費削減プロジェクトを立ち上げ、共通品や同種同効品の価格統一を行った。昨年度同様、各メーカーより原材料高騰による定価値上げが行われる中、上記活動により、約500万円の価格削減となった。

医療機器等の購入に関しては、緊急性など必要度を確認し優先順位をつけ、順次購入した。

- 中長期修繕計画に基づき、大規模修繕ではなく経年劣化に伴う設備の維持・修繕を行うことで、費用削減を図った。
- 省エネルギー推進委員会にて、院内の照明について検討し、基本的に全て蛍光灯からLEDへ変更する計画を策定した（令和7年度より変更を実施）。また、節電に対する啓発活動を行い、病院全体で省エネルギー対策に取り組んだ。

## 【目標に係る実績値】

(単位：%)

指 標	福岡市立こども病院		福岡市民病院	
	令和6年度 目標値	令和6年度 実績値	令和6年度 目標値	令和6年度 実績値
給与費対医業収益比	64.4	66.0	61.9	58.3
材料費対医業収益比	19.6	19.9	31.7	31.6
うち薬品費対医業 収益比率	6.7	8.0	10.8	11.9
うち診療材料費対 医業収益比率	12.6	11.6	20.6	19.6
委託費対医業収益比	12.1	11.5	8.7	8.0
ジェネリック医薬品 導入率 ※	85.0	78.9	88.0	88.7

※ジェネリック医薬品導入率については、数量の割合で算出している。

#### 第4 その他業務運営に関する重要事項を達成するためにとるべき措置

##### 1 福岡市立こども病院における医療機能の充実

- 患者の包括的な成長・発達支援及び入院生活支援等を目的として、4月にこども支援室を設置した。(再掲)
- 厚生労働省DPC(診断群分類)公開データにおいて、川崎病(209例)について、成人を含む全国のDPC病院の中で症例数が9年連続で全国1位となるとともに、複雑な先天性心疾患に係る難易度の高い手術症例(53例)については全国2位(前年度まで8年連続全国1位)となるなど、順調に成果を挙げた。

臨床研究については、科学研究費助成事業(文部科学省)で研究代表として採択された課題等に積極的に取り組み、19件(うち研究代表3件)の研究に参加した。

科学研究費助成事業(文部科学省) 7件

厚生労働科学研究費補助金(厚生労働省) 8件

日本医療研究開発機構(AMED) 2件

独立行政法人環境保全機構 2件

また、治験業務については、アクティブプロトコル26件(うち新規3件)を実施し、新たに14人の患者へ治験を開始した。

- 國際医療支援センターを中心に、職員の外国語能力・コミュニケーション能力の向上を目指して、医療英語・中国語・フランス語研修を開催(6年度延べ19回、5年度延べ29回)した。
- 臓器提供の申出がなされた際に円滑に対応できるよう、外部講師による講演会を1回開催するとともに、脳死判定及び臓器提供のシミュレーションを各1回実施した。
- 新病院基本構想で示された医療機能の基本的な考え方を踏まえ、引き続き病床の適切な運用等に係る取組を進めた。

- 福岡コンベンションセンターに働きかけを行い、4月に支援自販機（寄付型自動販売機）をマリンメッセと国際会議場に各1台ずつ設置した。  
また、療養環境整備基金を活用し、クリスマス会のプレゼントや外来での採血後に患児へのご褒美として用意しているカプセル玩具の補充費用として充当した。

## 2 福岡市民病院における経営改善の推進

- 福岡県と改正感染症法に基づく医療措置協定を令和6年7月に締結し、感染症発生時は病床の確保、発熱外来の設置、人材の派遣を行うこととした。令和6年度はインフルエンザ・コロナについて重症化リスクのある患者の積極的な受入をした。  
コロナの影響による病床確保がない年度となり、紹介患者及び救急患者の受入れを強化した結果、病床利用率は86.5%と令和5年度76.3%を大幅に上回った。これにより医業収益については約5億3,460万円の増収となった。  
物価高騰の影響による経費の増により収支は厳しいものとなつたが、医業収支比率・経常収支比率は目標を上回った。  
今後は、あり方の検討状況を踏まえながらAIを用いた画像診断システムの活用により医師の負担軽減を図るなど、高度でより安全な医療の提供を行いながら、医療DXによる経営の効率化を推進していく。
- 中長期修繕計画に基づき、大規模修繕は実施せず、経年劣化に伴う修繕を必要に応じて行うこととしており、令和6年度は、厨房の地下給水配管からの漏水が判明したため、埋設配管から地上配管に切り替える工事等を実施した。  
令和5年度に発生した地下埋設配管からの重油流出については、地下水の定期的なモニタリング調査を実施し、汚染範囲が拡がっていないことを確認した。また、汚染対策実施に向けた設備機器の選定試験などを行った。

## 第5 予算（人件費の見積りを含む。）、収支計画及び資金計画

### 1 予算（令和6年度）

(単位：百万円)

区分	予算額	決算額	差額 (決算－予算)
収入			
営業収益	17,661	17,605	▲ 56
医業収益	15,513	15,430	▲ 82
運営費負担金収益	1,944	1,944	0
補助金等収益	110	110	0
寄附金収益	12	12	0
受託収入	82	109	27
営業外収益	109	125	16
運営費負担金収益	4	4	－
補助金等収益	1	1	0
その他営業外収益	104	120	16
資本収入	74	83	9
運営費負担金	52	52	0
補助金等	22	31	9
その他の収入	－	9	9
計	17,844	17,823	▲ 21
支出			
営業費用	17,632	17,822	190
医業費用	17,409	17,640	232
給与費	9,686	10,032	346
材料費	4,157	4,222	66
経費	3,439	3,287	▲ 152
研究研修費	127	98	▲ 29
一般管理費	223	182	▲ 42
給与費	143	126	▲ 17
経費	81	56	▲ 25
営業外費用	9	10	2
資本支出	1,149	1,084	▲ 65
建設改良費	1,090	1,025	▲ 65
償還金	60	60	－
その他の支出	4	4	0
計	18,793	18,920	127

(注) 計数は原則としてそれぞれ四捨五入によっているので、端数において合計とは一致しないものがある。

## 2 収支計画（令和6年度）

(単位：百万円)

区分	予算額	決算額	差額 (決算－予算)
収益の部	17,897	17,835	▲ 62
営業収益	17,788	17,710	▲ 78
医業収益	15,513	15,414	▲ 99
運営費負担金収益	1,944	1,944	0
補助金等収益	110	110	0
寄附金収益	12	12	0
資産見返負債戻入	128	130	3
受託収入	82	100	17
営業外収益	109	116	7
運営費負担金収益	4	4	－
その他営業外収益	104	112	7
臨時利益	－	9	9
費用の部	19,322	18,867	▲ 455
営業費用	19,310	18,853	▲ 456
医業費用	18,994	17,911	▲ 1,082
給与費	9,829	9,675	▲ 154
材料費	4,157	3,822	▲ 335
経費	3,445	3,008	▲ 437
減価償却費	1,434	1,312	▲ 121
資産減耗費	2	1	▲ 1
研究研修費	127	93	▲ 34
一般管理費	229	182	▲ 47
その他営業費用	87	760	673
営業外費用	9	10	2
臨時損失	4	4	0
純損失	▲ 1,425	▲ 1,033	392
目的積立金取崩額	－	－	－
総損失	▲ 1,425	▲ 1,033	392

(注) 計数は原則としてそれぞれ四捨五入によっているので、端数において合計とは一致しないものがある。

### 3 資金計画（令和6年度）

(単位：百万円)

区分	予算額	決算額	差額 (決算－予算)
資金収入	25,185	26,146	960
業務活動による収入	17,769	17,613	▲ 156
診療業務による収入	15,513	15,333	▲ 180
運営費負担金による収入	1,948	1,948	0
その他の業務活動による収入	309	333	24
投資活動による収入	74	1,307	1,233
運営費負担金による収入	52	52	0
その他の投資活動による収入	22	1,255	1,233
財務活動による収入	－	－	－
前事業年度からの繰越金	7,342	7,225	▲ 117
資金支出	25,185	26,146	960
業務活動による支出	17,644	17,521	▲ 124
給与費支出	9,829	10,179	350
材料費支出	4,157	3,808	▲ 349
その他の業務活動による支出	3,659	3,534	▲ 125
投資活動による支出	978	782	▲ 197
有形固定資産取得による支出	978	537	▲ 441
無形固定資産取得による支出	－	22	22
その他の投資活動による支出	－	223	223
財務活動による支出	171	178	7
長期借入金の返済による支出	60	60	－
その他の財務活動による支出	111	118	7
翌事業年度への繰越金	6,392	7,665	1,274

(注) 計数は原則としてそれぞれ四捨五入によっているので、端数において合計とは一致しないものがある。

## 第6 短期借入金の限度額

2,000百万円（令和6年度は短期借入の実績なし）

## 第7 重要な財産を譲渡し、又は担保に供する計画

なし（令和5年度に譲渡済）

## 第8 剰余金の使途

令和6年度は、決算において剰余は生じなかった。

## 第9 地方独立行政法人福岡市立病院機構の業務運営等に関する規則で定める業務運営に関する事項

### 1 施設及び設備に関する計画（令和6年度）

（単位：百万円）

施設及び設備の内容	決定額	財源
病院施設、医療機器等整備	913	前中期目標期間繰越積立金等

### 2 人事に関する計画

医師及び管理職を対象とした人事評価制度については、引き続き評価結果を業績手当へ反映するなど、職員のモチベーションの維持・向上を図った。

また、管理監督者を対象とした外部講師による研修及びそれ以外の職員を対象としたWeb動画を活用したハラスマント研修、全職員対象の情報セキュリティ研修等を実施したほか、職員を外部研修へ派遣した。

各病院においてもWeb等を活用した院内研修の実施や外部研修の受講推進等研修体制の充実に努めた。

人材育成や組織の活性化を図るため、適材適所の人事配置に努めたほか、有期職員を福岡市立こども病院に165人、福岡市民病院に122人及び運営本部に2人配置するなど、効果的・効率的な組織運営を推進した。

※有期職員の人数は令和6年5月1日現在